

障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

特定非営利活動法人 飛騨市障がいのある人を支える会 会報

ともに暮らしたい

HP : <http://support-hida.com/>

平成29年 7月 8日

みんなで「成人を祝う会」
をおこないました。



★ホームページを開設しました。 <http://support-hida.com/> です。
ぜひ、ご覧ください。

「ピースのいま」を紹介します。

サービス管理責任者
袁輪由美子

福祉サービス事業所「ピース」を毎日開設するようになり、まる二年。主に成人の方を中心に利用して頂いています。

少しでも利用しやすい環境づくりとして、一日4回の送迎を行い、そのかきもあり利用者の数も少しずつ増えてきました。H29年3月の時点で、一日あたり平均84人(定員10名)の利用がありました。

現在の「ピース」は徐々に落ち着いてきた生活の基盤ができ、一人一人の将来を見据えての個別の支援も充実したものになってきました。それぞれの方が望む将来像、ピースの役割りを明確にしながらいかにむけて、今、どんな支援が必要かと具体的にあげて実行していく。「うん、うまくいかないな」「こうしてみたらどうやる」「スタッフからいろいろな意見が出てきます。小さい事業所のいいところは、いいと思うたら即実行。うまくいなくても諦めない。また考える。そんなことの繰り返し。どんなに障がい重くても話すことが難しくても、話すことができるのになかなか自分の気持ちがあまく伝えられなくても、私たちスタッフは、本人さんの本当の気持ちを知らたい。なんとか引き出したい。本人さんの思いを一番に考えた支援を。それが私たちの一番の思いです。

そんなピースの日々の活動の中の「コマ」を次ページに紹介します。ピースの活動の理解を深めていただければ幸いです。

◆成人の利用が8~9割

(児童は長期休暇、土曜日の利用)

- ・飛騨古城特別支援学校卒業生2名
- ・他県の施設利用をしてみえた方
- ・在宅生活が数年続いていた方
- ・就労継続B型事業所をやめられた方
- ・一般企業をやめられた方

障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

Aさんがピースに通って下さるようになったのは約二年前。今まで通っていた施設がまったく行けなくなり、自宅のみの生活になってしまい、お母さんがなんとかしたいという思いでピースへ相談に来てくださいました。もともとAさんは、以前は、職場の仲間と海外旅行まで行ける方でしたが、ピースにみえたころは、すっかり自信をなくして、お母さんから離れることができなくなり、今まで一人でできていた日常生活も、できなくなっていました。長年、順調に働いていた息子さんが、どんどんできなくなっていく姿にどれほど不安を持たれたか。なんとが元のような姿にと願って、できる限りの努力をするも、それがすべて裏目に出て、どんどん悪い状況に陥っていく。その不安と、絶望感は何れほどのものだったか。息子さんの笑顔を取り戻したいと必死にがんばるお母さんの姿は、私たちスタッフの胸を打つものでした。まずは、ピースへ来てもらえようとして、利用時間、頻度、過ごし方など、本人にとって過しやすいう環境を、試行錯誤を続けました。

しかしなかなか軌道にのることができず、来所日が減っていく、そのうち来られなくなってしまう。この時は、スタッフ皆本当に悩みました。お母さんとの話し合いを続け、本人が行きたいと思えるにはどうしたらよいか悩みました。そして、いろいろ手探りをするなかで、Aさんの好きなプロモデルをきっかけに何かできないかと考えるにいたりました。本人が好きそうなプロモデルを扱っている店を調べ、事前調査をし、店の人へAさんの写真をみせながら理解と協力を得るなど、この計画を絶対に失敗させないぞと、入念に準備をして向かいました。そして、いよいよAさんをプロモデル屋さんに誘っ

て連れて行ったところ、普段は口数の少ないAさんですが、大好きなプロモデルの話題なので、理解あるお店の方と流れるような会話をし私たちを驚かせました。

この時からAさんに月一回のおでかけデイを設定し、プロモデルを買いに行くことはもちろん、自分からお店へ予約の電話をいれたり、お店の方といろいろな会話をし情報を得たり、どんどん世界を広げていきました。そしてこのおでかけデイの昼食代、プロモデル代を稼ぐために、今ではブレス配りやピースでの軽作業は定着し、この四月からは以前はやりたくないと言っていた公衆トイレ掃除までも、自分から意欲的に取り組めるようになってきました。また飛騨市の事業「まめとく」を利用して、減量を目指しピースでウォーキングにも取り組んでいます。私たちは、挫折や周囲からの否定で、Aさんがなくなっていくた自信を取り戻す支援を第一に考えてきました。自信をつけるために設定するステップを念入りに考え、十分な段取りをして、失敗体験を作らないように気を付けます。自信がついていないままの新しいことへの挑戦は、すぐにまた挫折をしてしまう可能性が高いと考え、小さな成功体験を積み重ね、少しずつ自信を取り戻していくことを目指します。

順調そうに見えても、小さな変化や責任への緊張からこだわりの繰り返し行動があったりというのは今でも続いています。いつまた後退してしまうかという不安もゼロではありませんが、その時はその時、また、本人、家族と一緒に悩み、前に進んで乗り越えていきます。何があっても絶対にあきらめず、また一から出直せばいいだけです。先

とを不安がらず今この時を大切に一緒に楽しんで前に向かって過ごしていきたいと思えます。

Aさんのお母さんはこれまでを回想し次のように記録して見えました。

ピースに通所から約2年、息子の日常生活と云うたら昼夜逆転、ちやらんぱらん。どこから手をつけていいのか入り口さえ見えず、親子ともすべて何事にも自信が持てずパニック状態の日々地獄だったとき、声をかけ、手をさしのべてくださったピース代表の奈木さん、職員の内温まる真心をふんだんにいただいて今生かされている幸せを感じつつ、ありがとうございます。ただ、ただ感謝です。

息子が安心して過ごせる居場所、本人の心安らかに本人らしく過ごせるよう、急がずゆつくり見守っていきましよう！まず調理の日、おやつの日、送迎車で約1時間、食事、おやつを食べてゆつくり寝たりの繰り返し！少しずつ自分からも出て居心地よく楽しそうに生き生きとしている姿に触れその成長が親にとって本当の幸せです。



公衆トイレ掃除を頑張っているA君

障がいのある人もない人も安心して暮らせるまちづくりをめざして

平成28年度 飛騨市小さなまちづくり応援事業

アルミ缶回収から広がる 障がい者支援の輪

右の写真にあるアルミ缶回収ボックスが飛騨市内に置かれていることに気づかれています。飛騨市内に配置をお願いしたところ、二十三カ所配置をしてもらえました。



店舗



公民館・公共施設



個人宅

飛騨市で「飛騨市小さなまちづくり応援事業」の募集がありましたので支える会でも応募しましたところ、そのコンテンツに通りました。そこでその結果について紙面を借りて報告いたします。

アルミ缶回収ボックスの設置

- 個人宅……………10件
- 店舗……………3件
- 公民館・公共施設……………4件
- 小中学校……………6校

障がい者の社会参加や地域交流を促進しました。

そして、障がいのある方は…



- 1) 地域へ自ら足を運んでアルミ缶回収活動を行い、社会参加への第一歩となりました
- 2) 地域の方の励ましやお礼の言葉は、地域住民の一員として認められ励みとなり、作業に対する意欲が向上しました
- 3) アルミ缶回収の収益は障がいのある人の活動資金として成人を祝う会やクリスマス会等の行事で楽しむことができました

アルミ缶ボックス設置の効果

【設置協力者の方は…】

・近隣の方に声掛けし、アルミ缶ボックス設置の趣旨説明をしてくださいました

地域の方が障がい福祉の啓発活動！

【地域の方は…】

・ご高齢の方でも、近くにあることで歩いて持って行けました「これくらいの協力なら私でもできるよ」

いつでも誰でも簡単にできるボランティア活動！

障がい者支援の啓発が地域の方の発信から広がりを見せました。

この事業を通していろいろなことがわかりました。

これから継続してご協力ください。

地域住民によるボランティア活動の推進
障がい者支援の啓発活動の推進
障がいのある人の社会参加の推進

障がいのある人が住みやすいまちは、誰にとっても住みやすいまち

障がいがある人もない人も、同じ人間として一人ひとりが大切にされ、安心して暮らせるまち

飛騨市をめざして

地域の方とのふれあい



障がいのある人が地域の方に見守られ、「ありがとう」「ご苦労様」という言葉を励みにアルミ缶回収をしました



いつもご協力に感謝してゆきます

＝お願いいたします＝

『会費納入について』

今年度も年会費納入をしていただけますようお願いいたします。本会報に同封しました振込用紙を使い納入して下さい。どうかよろしくお願いします

『会員拡大について』

私たちの活動のPRや理解を広めるためにも、ぜひ、会員拡大にご協力ください。会員の拡大は理解者を増やす営みでもあります。なお、会員募集のパンフは、福祉サービス事業所「ピース」にありますから連絡下さい。振込用紙も同様です。

『物品寄付のお願い』

ピースでは、ご利用者の就労支援・自立支援の一環として、また、吉城特別支援学校への寄付を行うため次の物品を集めています・カレンダー（縦横30cm以上で裏が白いもの）
・白タオル（未使用なら名前入り等はOKです）
・アルミ缶（市内各所に回収ボックスがあります）
・エコキャップ（ペットボトルの蓋・縛糸に回収ボックスがあります）
・書き換えはがき
・駿河屋マイカードポイント券（グリーンスタンプ）
・ベルマーク
・インクカートリッジ（エプソン、キヤノン、ブラザーの純正のもの）
・テトラパック（牛乳、ジュースなどが入っている紙パック）

（連絡先） 飛騨市障がいのある人を支える会
岐阜県飛騨市神岡町山田 2358 番地 2
TEL/FAX 0578-82-1559
E-mail : sasaerukai-hida @ estate.ocn.ne.jp

ベルマーク運動への協力に感謝しています

3月22日飛騨吉城特別支援学校でベルマーク贈呈式を行いました。皆様からお寄せいただいたベルマーク10万点、テトラパックを贈り、生徒代表の方から感謝状をいただきました。このベルマークで非常食等防災用品一式を購入されました。

平成21年から始めたベルマーク運動は、平成29年3月末累計で100万点集まりました。

市内の保育園、小中学校、高等学校の皆さんや地域の皆さんお一人おひとりの意識と関心の高さがこの大きな数字に表れています。そして、たいへん時間と手間のかかるベルマーク仕分け集計作業もボランティアの方々によって行うことができました。

地域の皆さんのお力により、ベルマーク運動に大きな成果をあげられたことに感謝すると共に、これからも地域の皆さんと一緒に飛騨吉城特別支援学校を応援していきたいと願っています。ベルマーク運動も継続して行っていますので、ご協力をよろしくお願い致します。

『ベルマーク回収箱設置場所』 黄色い箱が目印です！

ハートピア古川、総合会館、飛騨市図書館、神岡振興事務所、神岡保健センター、飛騨市民病院、神岡子育て支援センター、宮川振興事務所、福祉サービス事業所、ピース

ありがとうございました！

『寄付お礼（団体の掲載）』

瑞岸寺 益世会様 七万八千九百三十七円
東日本チャリティ実行委員会 様 三万円

えごまレディーズ・水かがみの会様
新成人を祝う会 お弁当40食

アルミ缶エコキャップ、カレンダー、白タオル等

民生委員児童委員神岡障がい部 様
アルミ缶エコキャップカレンダーテレホンカードパンフカートリッジ等

古川小、古川西小、古川中学校、神岡小学校、
神岡中学校、河合小学校、宮川小学校 様
アルミ缶、エコキャップ、パンフ、カートリッジ、ベルマーク等

地域生活支援センターやまびこ様
カレンダー

個人の方からも、たくさんの御寄付、
物品をいただきました。
皆様の温かいお気持ちに感謝申し上げます。



飛騨吉城特別支援学校の 生徒代表の方から感謝状をいただきました。